0616

（前回のミーティング）

・表示フィルターにip.dstAddr == “127.0.0.1” && port.dst == 423 のようにフィルターをかける. Protocolに IEEE802.15.4 が表示されるはずである.

・本研究では, Raspberry Piを使用することに決定した.

【今週の進捗】

127.0.0.1はIPアドレスで自分自身のことを指す. 以下は今回試したことである.

１．Sourceに127.0.0.1は確認できたが, ProtocolがIEEE802.15.4ではなく, SSDPであった.SSDP(Simple Service Discovery Protocol)が生成しているもので, SSDPはプラグアンドプレイデバイス検出に使用されているプロトコルである.

２．再度, 127.0.0.1のみにフィルターをかけて, 行った.

テーブル が含まれている画像

自動的に生成された説明

送信元も宛先も127.0.0.1である. プロトコルがIEEEではなくTCPであった.

３．次に宛先であるCoordinatorの64bitのMacアドレス(0x001BC50122016BD5)でも以下のように, フィルターかけることが可能であったため, 小文字表記で条件を絞る.

・eth.addr == 1b:c5:01:22:01:6b:d5

・eth.dst ==1b:c5:01:22:01:6b:d5

しかし, キャッチできず, 何も表示されなかった.

【ラズパイの初期設定】

1. ラズパイにOSを入れるために、Raspberry Pi Imagerをダウンロード/インストールを行った.
2. Raspberry Pi Imagerを用いて、Raspberry Pi OS（32-bit）をラズパイのSDカードにインストールした.
3. モニターとラズパイを接続し、ラズパイの初期設定を行うことで、使用することが可能になる.

・今回はラズパイのOSのインストールを自分のパソコン(Windows)で行いたいため、Windows用のRaspberry Pi Imagerを使用した.

・Arduinoとラズパイを同じものだと判断して作業をしていたが, ラズパイは独立したコンピューターであるため, ノートPCのモニターではラズパイを表示することはできない.

以下の写真のように, 一時的にラズパイとテレビを繋いで, OSの有無を確認した.

座る, 覆い, テーブル, 雪 が含まれている画像

自動的に生成された説明

・ラズパイにターミナルがあるため、そこでプログラムのコンパイル等を行う.

AD変換に関しては, D++かPythonでのプログラミングとなる. 今のところPythonでのプログラミングを予定しているが, 相談して変更する可能性がある.

【スケジュール】

テキスト

中程度の精度で自動的に生成された説明